



平成 26 年 1 月 10 日

各 位

会社名 株 式 会 社 メ デ ィ ネ ッ ト
代表者名 代 表 取 締 役 社 長 鈴 木 邦 彦
(コード番号:2370 東証マザーズ)
問合せ先 取 締 役 管 理 本 部 長 原 大 輔
(T E L 0 4 5 - 4 7 8 - 0 0 4 1)

米国 Argos Therapeutics 社と細胞医療製品「AGS-003」に関するライセンス契約を締結

株式会社メディネットと Argos Therapeutics, Inc. (本社:米国、President & CEO Jeffrey D. Abbey、以下「Argos 社」)は、平成 25 年 12 月 27 日付で、Argos 社が開発している転移性腎細胞がんを対象とする細胞医療製品「AGS-003」に関するライセンス契約を締結しましたのでお知らせします。

本契約に基づき、メディネットは日本での「AGS-003」の開発および製造の独占的許諾を受けるとともに、国内での販売およびサブライセンスの非独占的ライセンスを取得します。また、メディネットは Argos 社に対し契約一時金の支払いと貸付を行いました。

「AGS-003」は、平成 23 年にノーベル生理学・医学賞を受賞した米国ロックフェラー大学 ラルフ・スタインマン教授の技術が用いられた細胞医療製品です。患者一人ひとりの治療効果を得る(個別化医療の実現)ことを目指し、患者自身のがん組織から抽出した RNA(遺伝情報伝達物質)を樹状細胞に導入し、各患者のがん抗原に対する免疫応答を誘導するようデザインされています。現在、「AGS-003」とスニチニブ(転移性腎細胞がんの標準治療薬)の併用治療に関する第Ⅲ相臨床試験が複数の国で進行中ですが、米国において既に終了した第Ⅱ相臨床試験では、スニチニブ単独治療と比べ、全生存期間の中央値が 2 倍に延長したという結果が得られています。

当社は改正薬事法の下、「AGS-003」の早期の製造販売承認取得を目指してまいります。

なお、当社が本契約に基づき Argos 社に対して支払う資金は、平成 25 年 3 月 7 日に開示しております「第三者割当による第 4 回～第 6 回新株予約権(行使価額修正選択権付)の発行および新株予約権買取契約(行使許可条項付・ターゲット・イシュー・プログラム「TIP」)締結に関するお知らせ」ⁱで調達した資金を当初計画通り充当する予定です。また、本件は当期の通期業績予想には既に織り込んでおり、業績に与える影響は軽微であると見込んでおりますが、適時開示の必要性が生じた場合は、その内容を速やかに開示いたします。

以上

ⁱ 平成 25 年 3 月 7 日リリース <http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1043416>

「第三者割当による第 4 回～第 6 回新株予約権(行使価額修正選択権付)の発行および新株予約権買取契約(行使許可条項付・ターゲット・イシュー・プログラム「TIP」)締結に関するお知らせ」

【ご参考】

■Argos Therapeutics, Inc.について

- (1) 本社所在地: 4233 Technology Drive Durham, North Carolina, United States of America
- (2) 代表者名: President and CEO Jeffrey D. Abbey
- (3) 設立年: 1997年
- (4) 事業内容: ノーベル生理学・医学賞を受賞した米国ロックフェラー大学 ラルフ・スタインマン教授が共同創設者の一人となっているバイオベンチャー。
基盤技術「Arcelis」を用いて、がん治療や感染症治療分野での個別化医療に向けた細胞治療技術の開発および事業化

■腎がんについて

腎がんは、世界的にも罹患率、死亡率ともに増加傾向にあり、日本においても2000年には約10,000人であった罹患数(推定)が、2008年には約19,000人となっており増加傾向にあります。腎細胞がんは腎がんの約80%を占め、その約20%が転移性腎細胞がんで、転移性腎細胞がんの5年生存率は約20%となっています。

腎細胞がんの治療に関しては、日本国内ではスニチニブがおおよそ5割の適用率を有するため、スニチニブと「AGS-003」の併用治療の有用性が規制当局に認められた場合には、多くの腎細胞がん患者様に対して新規の治療選択肢が提供されと考えています。